

第3回研究会（12月22日）のおさらい

【跡地周辺まちづくりのスケジュール、体制等のイメージの提示】

- 映画館跡地周辺のまちづくりが今後どのように展開していくかのスケジュール、その中で地元関係者がどのような体制で取り組むかについて、現段階で考えられるイメージを提示した。

【遠藤さんからのミニレクチャー】

- 「まちらしい空間の作り方」として、公共空間と私空間の間の「中間領域」をどう充実させるか、また、「既存の街並み」に新しい開発をどう調和させるか、といったポイントが重要。
- 街中で一定の大きさ以上の開発に対しては、デザインを協議しマネジメントしていくプロセスが必要だが、ただ公開して意見募集をすればよいものではなく、公共部門や専門家等が関与し、論点整理などを適宜していくことで、効率的に議論、調整が図られる。七間町においても、全体のまちづくりを議論する場と別に、跡地デザインの検討会議を設けて、デザインの協議、マネジメントをしていくことが望ましい。
- 映画館跡地で地元関係者が意欲を持っている暫定活用については、敷地内だけでなく、周辺のエリアへ波及、連携するようなものとして企画されることが望ましい。

【意見交換】

- 上下水道局もヨシコン株式会社も、現在は具体的な跡地利用計画、構想などが固まっていないが、今後、具体的なものが決まってくれば、地元とまちづくりの観点で話し合いを持ちながら進めていきたいという意向を示した。
- 地元町内会等も、映画館跡地が更地の段階からの暫定活用といった、地元でできる取り組みを進めていきたいという意向を示した。
- 上記の他、これからの都市での「生産・産業」を考える重要性、不動産オーナーや大学などの人材をまちづくりの議論に加えていく必要性などについて意見が出た。

■今後のスケジュール感、具体的な空間づくりのポイント、その協議プロセスなどについて提示されたことから、各主体の関わり方、意向等について、共有ができた。次回は、それをふまえて、ガイドラインの内容や今後の体制等について最終案を提示することとなった。